

アイリス Letter

保護者の皆様へ



2025 年 10 月 31 日発行

第 3 号

広島女学院中学高等学校

聖書のことば

イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」

(ヨハネによる福音書 14 章 6 節)

学校の生垣の金木犀が思い出したように香っています。つい先日まで夏服でよかった気候が、いっぺんに秋の気候に変わりました。今、学校は文化祭に向けて慌ただしい生徒の動きや声でいっぱいです。

2 学期が始まり、ここまで 10 月の行事週間など一日がとても内容のある日々が続いています。高 3 のみなさんは、いよいよ卒業後の進路が具体的になり、自分で自分を振り返りながらエネルギーを振り絞る毎日でしょう。高 2 の沖縄修学旅行、中 3、中 2 の長崎研修旅行がありました。学校では経験できない 素敵な時間を持つことができたと思います。4 月から新しい環境を迎えた高 1、中 1 のみなさんも、それぞれ高校生らしく、中学生らしくなり、忙しく廊下を歩く姿は先輩たちと変わらなくなりました。毎日の一つひとつの当たり前に行われていることが、とてもすばらしく、とても大切で、ときにはきつく苦しいこともあるでしょうが、私たちを成長させる場として感謝したいと思います。

イエス様の言われた「私は道であり、真理であり、命である。」は、有名な言葉です。そのイエス様が、わたしを知ってくださることは、とても勇気づけられます。しかし、この言葉は、イエス様が十字架につけられる前に、弟子たちに言った言葉でした。そのイエス様の姿は、「道であり、真理であり、命である」と、弟子たちにとって、とてもそう思えないものであったでしょう。その弟子たちも、自分たちにとって都合のよいものでない、本当の道を、真理を、命を求めたとき、イエス様の言葉に支えられたのです。

私たちも、自分の心を見つめ本当に進もうとするとき、一人になり勇気がなくなります。イエス様は、「心を騒がせるな。」(大丈夫だよ)と言ってくださっています。

(校長)



創立 139 周年創立記念礼拝

10 月 4 日（土）に、広島女学院ゲーンズ幼稚園園長古重歌織先生を講師としてお招きし、「創立記念礼拝」が持たれました。中・高とも礼拝では女学院の校母であるゲーンズ先生の愛唱讃美歌である 294 番を歌い、「イザヤ書 60 章 1 節～5 節」を用いてお話をされました。

広島女学院は 1886 年に、砂本貞吉牧師により創立された女子塾「広島女学会」が始まりです。その 6 年後、1891 年 9 月 10 日に幼稚園は設立されました。初代校長ゲーンズ先生は、「幼子たちのために、よい幼稚園を開くことは、私の最も大切な夢の一つでした。」と語っておられます。

ゲーンズ幼稚園が、建学の精神「我らは神と共に働く者なり」を中高と同じように大切にし、平和を創り出す教育を実践していることを、古重先生から幼稚園児たちの様々な活動の写真をを見せていただきながら感じる事ができました。「自然がいっぱい」「伸び伸び」などの言葉で表現される園の保育です。先生の言われた「自由な遊びの不自由さ」という言葉がとても新鮮に残っています。中高の教育も「自由に育つ中に、隣人とつながる使命をもつ」ことが根幹です。改めて、砂本先生、ゲーンズ先生を始め、広島女学院と共に歩まれた先達の祈りを感じます。「あなたは大切です。」といつもそばにいてくださる神様に深く感謝いたします。

（宗教教育委員会）

青梅・羽村ピースメッセンジャー事業

今年も平和を考える夏が巡ってきました。8 月 1 日（金）青梅・羽村ピースメッセンジャー事業として東京の生徒・学生 23 名と広島女学院の生徒 11 名が、一緒に平和活動に取り組みました。

まず、江波山気象館と ABCC（現在の放射線影響研究所）に分かれてフィールドワークを行いました。8 月に入り強烈な暑さの中でしたが、実際に現地に足を運んだことでいつもの授業とは違った学びが得られました。

その後、学校にて被爆体験講話を拝聴し、最後に参加者全員で交流会を行いました。実際に被爆された方から直接お話を伺い、命や暮らしが奪われたあの日の現実に改めて向き合いました。被爆者の高齢化が進んでいる今、生の声に触れられたこの時間は私たちにとって非常に貴重であり、深く心に刻まれるものとなりました。



最後の交流会では、お互いの平和活動を紹介したり、一日を通して感じたことを語り合ったりしました。地域が違っても平和を願う気持ちは同じであることを実感し、互いに刺激を受けるひとときとなりました。

今年、広島は戦後 80 年という節目の年を迎えました。1945 年の終戦以来、日本では戦争が起きていません。



しかし、世界に目を向けると、今も各地で争いが続いています。だからこそ、私たちはこの活動で生まれた「つながり」を大切にしながら、平和を考え、築いていく必要があると強く感じました。

(グローバル教育推進部)

中1 バイブルデイキャンプ・遠足

○バイブルデイキャンプ

行事週間の中1は、10月9日(木)の4限から6限にかけて「バイブル・デイ・キャンプ」を行いました。日頃から、聖書の授業や毎日の礼拝で聖書をとおして自分を見つめ、様々なことについて思索する機会をもっていますが、意外と聖書をまとめて学ぶ機会が少ないものです。バイブル・デイ・キャンプでは、ルカによる福音書を忠実に映画化したと言われる『ジーザス』を鑑賞し、イエス・キリストの生涯について学びました。



その後はゴスペル礼拝を献げました。約40名の生徒が演奏や歌、踊り、スタッフとして「賛美せよ」「恵み」というゴスペル曲を準備してくれ、中1の生徒や学年会の教員がみんなで讃美する礼拝の時間を持ちました。自分を見つめて思索に向かう日頃の礼拝と異なり、喜びと感謝をともにしながら讃美するという豊かで貴重な礼拝のときが与えられました。準備に関わった生徒の皆さん、主体的な姿勢で行事に参加した生徒の皆さんに感謝します。

(宗教教育委員会)

○安佐動物公園遠足

10月10日(金)は安佐動物公園への遠足を行いました。陽射しの強いなか、汗ばみながら園内を散策しました。特にマルミミゾウの赤ちゃんが時間限定で展示デビューをしたので、それを楽しみにしていた生徒が多かったようです。展示開始50分前から行列ができ始め、一方でこちらはバスの集合時間が迫っていましたが、なんとか愛らしいゾウの赤ちゃんを見ることができた生徒もいました。

残念ながら広場のある西園が閉鎖中であつたため、学年全体の活動は実施できませんでしたが、各クラスのHR委員さんがクイズ大会を企画し、工夫を凝らしたクイズを準備してくれていました。例えば、「安佐動物公園のロゴには何匹動物がいるでしょうか」(答え: 8匹)「フラミンゴが野生で食べているものは?」(答え: プランクトン)など、全部で30問あり、結構難問ぞろいでした。すべてを解答し終わったら教員のところにやってきて採点。ごほうびにシール(正答率が高いと少しいいシール)をプレゼントしました。また、各グループでクイズをひとつ考え、帰りのバスでもクイズ大会をしました。学校を離れ、よい時間が持てたと思います。

(中1 学年会)

中2長崎研修旅行

今年度から新たに中2での実施となった長崎研修旅行。10月9日(木)～11日(土)の2泊3日で行ってきました！1学期から積み重ねた事前学習での学びを深めるべく、初日は平和公園にてクラスで準備した献鶴を手にセレモニーを実施、爆心地公園で当時の様子を想像しながら心をひとつにお祈りを捧げました。また、平和講話として、8歳で被爆を体験した山川剛さんのお話を聞きました。



2日目は浦上地区研修を行い、永井隆博士の生涯について学び、カトリック浦上教会ではガイドの山口京子さんからキリシタン弾圧や浦上天主堂にまつわる貴重なお話をうかがいました。また、軍艦島クルーズにも乗船しました。波の高さ等、条件がそろわないと上陸できないのですが、無事上陸できました。日本の産業を支えた炭鉱の様子や、当時のままの建物をうかがうことができました。

最終日はお待ちかねのハウステンボス自由行動！まだまだ過酷な暑さの残る三日間でしたが、全行程を通して好天に恵まれ、予定した全てのプログラムを無事終了し、多くの学びを得

ることができました。

学びあり、お説教ありの3日間で、集団行動において何が重要かということについても考えさせられたのではないのでしょうか。ぜひ今後の生活にも生かしてもらいたいです。この旅行のために活動してくれた旅行委員さん・礼拝委員さん、本当にお疲れ様でした。



(中2学年会)

中3長崎研修旅行

10月8日(水)から10日(金)まで2泊3日の長崎研修旅行に行ってきました。

1日目は平和公園を中心に、原爆資料館を見学し、城臺美彌子さんの平和講話を聴きました。城臺さんの問いかけにも積極的に答えるなど、みな真剣に聴き入っていました。この日の夜は、稲佐山とは反対の丘の上にあるホテルに宿泊しました。



2日目は、時間をかけて準備してきた班別研修です。午前中は浦上天主堂や二十六聖人記念館など平和関連施設を中心に散策しました。また、長崎くんちも開催されており、路面電車が止まるなどのハプニングもあり、計画した時間通りに進めなかったグループもありましたが、皆がなんとか昼食会場のオランダ物産館に到着できました。グループで問題を解決して行動するところなど中3のたくましい一面も見ることができました。午後の班別研修は、グラバー園や眼鏡橋など長崎文化関係の施設を回り、お土産も購入

するなど、長崎市内を十分に満喫することができました。この後、佐世保に移動してハウステンボスに隣接したホテルに宿泊し、翌日に備えました。

3日目は、いよいよハウステンボスです。いろいろなアトラクションを楽しみ、ねらっていたお土産もゲットしたことでしょう。3日間通してよく歩いたのではないのでしょうか。そして、お互いの様々な一面に触れ、皆の絆も深まり、実りの多い研修旅行になりました。



(中3学年会)

高1遠足

高1は、久しぶりにHR委員を中心にして決めたクラス企画の遠足になりました。A組はもみの木森林公園、B組は海響館、C組は大鬼谷オートキャンプ場、D組は倉敷、E組は倉橋島に行きました。雲一つないお天気の良い日で、



日常の学校から離れて楽しんでいました。出発前からのワクワクした気持ちも含めて、普段学校で見ることのできない良い顔をしていました。みんなと楽しいひと時を過ごすことができ、大変嬉しく思っています。



(高1学年会)

高2沖縄修学旅行

10月7日(火)から10日(金)の3泊4日で、高2は沖縄修学旅行に行きました。行きも帰りも沖縄の近くに台風があったものの、それを避けるようにして全行程を行うことができました。

沖縄に着いてすぐに平和祈念公園に向かいました。ガイドさんによる平和の礎の案内の後、資料館を見学しました。その後チビチリガマに移動し、現地ガイドの比嘉涼子さんと出会いました。長旅の疲れがあったはずですが、比嘉さんの熱のこもったお話に生徒一人一人が心を揺さぶられていました。2日目は事前に希望したコース別に平和学習を行いました。それぞれのコースでさまざまな学びがあったようで、自発的に自分の得た学びを他のコースの人に語り、共有している姿が見られました。3日目は午前



は午前には美ら海水族館を、午後は希望別の文化体験を行いました。特にマリンスポーツでは、雨の降る中の開催となりましたが、教員の心配をよそに、生徒は思う存分楽しんでいました。最終日は国際通りへ行く前に、展望デッキから嘉手納基地を見学しましたが、その広大さに圧倒され、現在も沖縄が抱えてい

る問題を心に刻むひと時となりました。



現地に行って、現地の人の語りに耳を傾けたり、残された物から想像したりすることで、事前学習では得られなかった沖縄戦の事実や沖縄の現在について、多くのものを得ることができた旅となりました。この旅が生徒一人ひとりの心に生きて残り、これからの歩みにつなげてくれることを期待しています。

(高2学年会)

高3遠足

ついに最後の遠足となる「みろくの里」へ行ってまいりました。

日頃、こつこつ勉強に励む高3生にとって、発散できる良い時間となりました。ランチは、ミートスパゲティ・カレー・ラーメン・唐揚げセットの4種類から



選べました。事前にアンケートを取った時の、真剣に選ぶみんなの表情が印象的でした。園内では、フリーパスをフル活用して、満喫していました。こわい乗り物に乗れる人も、乗れない人も、お互いを思いやりながら楽しめたひと時でした。心機一転、学びに励みます！



(高3学年会)

夏休み中の行事について

夏休み中の行事の諸報告は、本校ホームページ「今日の女学院」に掲載しています。ぜひご覧ください。

<https://www.hjs.ed.jp/todays-jogakuin>

保健室だより (3)

空を見上げると雲が高いところにあり、さわやかな風が感じられる秋になりました。日中は過ごしやすくなりましたが、この先、朝や夜の気温はグッと下がってきます。寒くなって空気が乾燥してくると気になるのが、風邪やインフルエンザなどの感染症です。

学校でも咳や鼻水、喉の痛みの症状が見られる生徒が出ています。特に、夜更かしや朝食抜きが続くと免疫力が下がり、体調を崩しやすくなります。日々の小さな積み重ねが元気な体づくりにつながります。

また、毎年「寒い、寒い」と言いながらも、ジャケットを着ない生徒が多く見られます。「重たい」「肩がこる」「苦しい」などの理由を口にしてはいますが、冷えは風邪だけでなく、腹痛や頭痛の原因にもなります。カーディガンなどをうまく組み合わせながら、せっかくのジャケットもしっかり活用してもらいたと思います。

9月に身長・体重測定を行いました。結果はお子さまにお渡ししていますので、4月か

らの成長をご確認ください。思春期は心身ともに大きく変化する時期です。数値の増減だけにとらわれず、食事や睡眠のリズム、元気の様子などを合わせて見ていただけるとよいと思います。もし気になる変化がありましたら、どうぞご相談ください。

(保健室)

心の健康 (3)

夏がとても暑く、今年は寒くならないのかと思っていましたが、10月の末から寒くなってきました。自然界の営みを感じます。



11月初旬には保護者も加わった学校行事があり、それが終わると月末の冬を迎える準備まで約3週間は、秋から冬へと移っていく良い季節です。木の葉は紅葉し自然の美しさを見せてくれます。この美しさは人の心にちょっとした感動を与えてくれます。

人間は自然が見せる姿に影響を受けるし、またその移ろいに人生を感じます。

11月は親と子で、また家庭で木々の葉の美しさに触れて心に感動を呼び起こす良い時期です。人間関係を重視した日々の生活の中で忘れてしまいやすいのですが、自然に触れて心に湧いてくる感動は心身の健康を増進してくれるようです。ちょっと歩を止めて木の葉の様子を見るゆとりを大切にしてみましょう。

(カウンセラー)

教職員の動向

○この度、以下の職員の方が異動されました。本当にありがとうございました。今後のご活躍をお祈りいたします。

異動

谷本 優子(事務) 大学総合学生支援センター事務課へ

○2学期からの新任の先生は次の方々です。

《講師》

金信 美幸 (聖書)

神崎 蒼介 (地歴公民)

上河内 香奈 (理科)



○8月1日付けで職員の異動がありました。

《事務室》 應本 真由美

生徒の活躍

◇中高吹奏楽部

・第66回広島県吹奏楽コンクール

高等学校小編成部門 金賞 中国大会進出

中学生A部門 銀賞

- ・第66回全日本吹奏楽コンクール中国大会
高等学校小編成の部 銅賞

◇中高マンドリン部

令和7年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール
優秀賞ならびに吹田市長賞（第5位）

◇高校水泳部

令和7年度広島県高等学校新人水泳競技大会 100m 背泳ぎ
8位 2-B K. H

◇第17回広島県高校生英語ディベート大会 3位入賞

2-B F. T 2-B K. R 2-C M. Y
2-D K. R 1-A I. W 1-B H. H

◇第13回広島県高校生韓国語スピーチ大会

大賞 2-A N. K
銀賞 2-A M. K

◇全国高等学校ビブリオバトル広島県大会 2025

廣文館特別賞 2-D M. S



◇第79回広島天満書道祭

特選賞 1-D T. R
金賞 1-A A. H

◇1-A K. Y

令和7年度全国高等学校総合体育大会 総合開会式 手話通訳

◇1-C I. A

第47回広島県高等学校音楽コンクール 管弦打楽器部門 優秀賞



今月の聖句

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

コリントへの信徒への手紙一 10 章 13 節

10 月 1 日。広島女学院創立 139 周年を迎え全教職員がゲンスホールに集い、創立感謝礼拝を始めに「全学院研修会」が行われました。

創立感謝礼拝では学院聖句とともに上記の聖句を軸として、三谷高康院長から今必要とされている女学院のミッションと歩みについて語られました。これまで 139 年間の女学院の歩みを振り返ってみると、原爆の犠牲程の厳しい試練はなかったということに再考の余地ありません。原爆の犠牲がもたらす「嘆き」と「悲しみ」に陥って再起不能と見る向きも多々ある最中でも、当時の松本卓夫院長は「信仰と祈りにより、キリストの名において創立された女学院は、いかなる災害によっても滅び去ることはあり得ない」という信念のもとで、女学院の再建を目指して努力を始めました。こうした松本院長の信念は、一日も早く授業を開始し、生徒たちと共に女学院の使命を果たすためでありました。(『広島女学院 130 年史』広島女学院 130 年史編纂委員会、2012)

松本院長による「信仰と祈り、キリストの名による女学院の歩み」という信念が確かな希望へ変わっていることを、戦後 80 年を迎えた今も生徒一人ひとりの歩みによって示されています。真実な神、私たちが襲った試練の中にあっても逃れる道を備えてくださる神。神と共に働く者として女学院の信仰と祈りを真摯に受け止めながら、さらなる 139 年間の歩みも希望と共に歩む女学院で在りたいです。

(聖書科 K. C.)

